オルネッライアとマッセート

第5回サステナビリティ
実施報告書

オルネッライアとマッセート

第5回サステナビリティ
実施報告書
第1期を完了

最高責任者からのご挨拶



サステナビリティを、事業活動に深く根ざした普遍的な価値として

サステナビリティは、ワイン造りと未来への展望を支える、大切な責務です。その実現には、一貫した姿勢と継続的な取り組み、そして時代の変化に応じた進化が求められます。同時に、あらゆる選択の礎となる価値観と、それを日々支える人々の存在を忘れてはならないと考えています。

2025年版サステナビリティレポートは、オルネッライアとマッセートにとって重要な節目となるものです。サステナビリティの実現に向けて、明確な方針と高い意識のもとに歩んできた、最初の5年間の取り組みがひとつの区切りを迎えました。

この期間を設けることで、私たちの取り組みに対する揺るぎない姿勢を示すとともに、その進捗や成果を明確に検証することができます。

この数年間で、サステナビリティはワイン造りに深く根づき、日々の意思決定に欠かせない要素となりました。当初の理念は具体的な実践へと発展し、ワイン造りや資源管理、変化する環境への対応にも着実な成果をもたらしています。

この歩みは、事業の礎となる自然環境だけでなく、人々にも目を向けたものです。良好な人間関係と開かれた対話、知識や専門性の共有、そして一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場環境こそが、サステナビリティを支える基盤となっています。

従業員との対話や人材育成、安全で働きやすい環境づくりを通じて、責任と協働、相互尊重に根ざした企業文化を育んでいます。人を大切にする姿勢こそが、持続的な成果を生み出し、未来の課題に対応するための原動力となっています。

ワイン造りが環境に与える影響を見極め、数値で計測する力も高めてきました。水や土壌という自然の恵みを無駄なく使い、気候変動の課題に取り組むため、先進的な手法を導入しています。

なかでも、二酸化炭素の排出量と水の使用量の測定は、単なる分析にとどまらず、より的確で責任ある意思決定を導く重要な指標となっています。

第5回となる本レポートは、到達点ではなく、これまでの歩みを映し出すものです。環境・社会・経済のあらゆる側面における発展を示すとともに、一つひとつの成果を終着点とせず、さらなる進化へとつなげています。

環境を守り、ワイン造りを持続させ、そして人を中心に据えること。その調和こそがサステナビリティの礎であるという信念のもと、今後も揺るぎない姿勢で取り組みを続けて参ります。

オルネッライア、マッセート最高経営責任者
ランベルト・フレスコバルディ



目次

1 活動の基本方針 P. 06

2 2025年度の主な成果 P. 11

3 サステナビリティの基本方針 P. 13
環境 P. 15
社会 P. 21
経済 P. 22

4 2021年から2025年の5カ年の成果 P. 23

5 2021年から2025年の5カ年の評価 P. 26

6 追加達成事項 P. 28

7 次期の目標、および進行中のプロジェクト P. 30

8 オルネッライア マッセート サステナビリティ委員会 P. 32

活動の基本方針

1

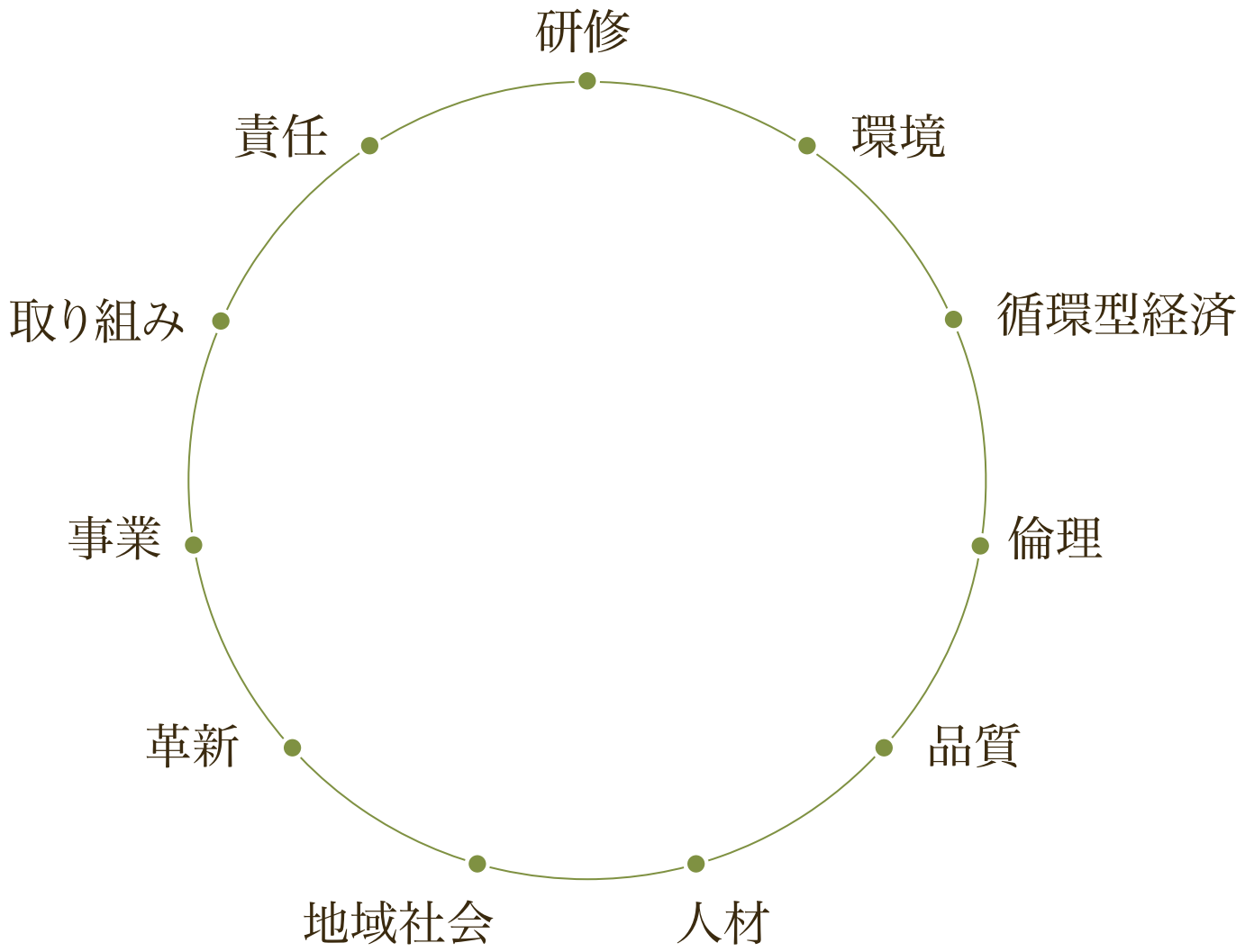
畑ごとに異なる個性と、自然の多様性。これが、当社の理念の中心にある貴重なリソースです。自然は繊細な均衡を保ち、いろいろな表情を見せます。この自然を出発点として、知識と経験、人の感性を積み重ね、ワイン造りを形にしていきます。当社は、サステナビリティを探究し、人を育て、ワインを生む土地に敬意を払うことを常に大切にしてきました。この三つは切り離せません。責任を貫き、長期にわたって価値を生み出す力を土台として、成長への道を歩んでいきます。

敬意の輪

「気づき」「対話」「責任」の価値

2025年、オルネッライアとマッセートは、改めて表明します。サステナビリティを追求し、責任を果たし、誰もが居場所を持てる場所を築く。この取り組みを一つに束ねます。この価値観が日々の判断のもとになり、人、地域社会、土地、環境を大切にする具体的な行動となって表れます。

当社の活動は、環境への負荷を減らすだけではありません。全員で共通の価値を築き、経済と社会と環境が豊かになることを目指します。働く人の健康、仕事の質、自然の恵みを守る姿勢。この三つを、活動の中心に据えています。







1. **活動指針の継続**
2025年も、オルネッライアとマッセートは、先に掲げた指針に基づいた活動を継続します。活動を続けることで、判断の質を上げ、判断に責任を持つ。この姿勢を深めていきます。



2. **環境とワイン造りでのサステナビリティ**
環境と生物の多様性を守ることは、当社の事業の基盤です。精密なブドウ栽培技術を取り入れ、自然資源を計画的に、責任を持って利用することで、常にサステナビリティを進めています。
ワイン生産の工程では最新の醸造技術とテクノロジーを取り入れています。これにより効率化と、環境への負荷が減りました。畑での栽培、醸造でも、水とエネルギーの使用法には特に、注意しています。



3. **倫理観と責任**
一貫性、透明性、責任。この三つを基本として、当社は事業を進めています。この倫理観はワイン造りに深く根づき、あらゆる判断の基準となります。これにより、事業の発展、社会とのつながり、環境保全のバランスを取れるのです。



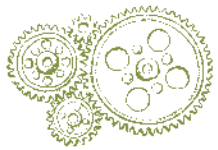
4. **人が中心**
当社の理念の中心にあるのは「人」です。多様な人々を受け入れ、互いを尊重し、力を合わせる。この姿勢を大切にしています。
専門性と人間性の向上を支援し、人権の尊重と、一人ひとりの成長や生活の質を高める職場環境づくりを推進しています。



5. **顧客との関係**
顧客の声に耳を傾け、求めるものを汲み取る。事業の質を向上させる上で必要不可欠です。市場と、当社のワインを飲む消費者。双方との開かれた対話を続けることで品質が向上します。



6. **循環型経済と共に築く発展**
取引先や仕入元との協力体制を強化していますサプライチェーン全体で価値を共有・創出する、統合的かつ循環型の仕組みづくりを推進しています。



7. 品質へのこだわりと技術革新

どの工程でも、品質を最優先に考えています。品質の水準を上げるには、技術革新が欠かせません。廃棄物を減らし、環境への負荷を低減し、自然資源を守るため、最新技術を取り入れています。



8. 研修と人材育成

従業員の技能を伸ばすことを重視しています。様々な研修の機会をもうけ、取引先にも供給網を通じてサステナビリティの意識を持ってもらう。これにより、ワイン造りのプロセスを進化させています。



9. 地域社会への貢献

当社は、地域社会の経済と暮らしの発展に貢献しています。雇用を生み、土地に根ざした知恵と技を支え、文化や地域の催しにも協力しています。

2025年度の主な成果

2

サステナビリティへの支出

446.000 ユーロ

ボトルの軽量化

195,6 t

太陽光発電の拡張

49 kWp から 290 kWp へ

取得した認証

1. WBAの生物多様性認証*
2. SQNPI (統合生産に関する国家品質制度)*

＊ WBA の生物多様性認証：
生物多様性の保全を認証。

＊ SQNPI (統合生産に関する国家品質制度)
：環境に配慮した農業を認証

サステナビリティの基本方針

3

2025年版サステナビリティレポートは、オルネッライアとマッセートが、より責任あるワイン造りと継続的な改善を目指して歩んできた5年間の節目となるものです。環境、人、事業活動のあらゆる側面において、長期的かつ持続的な価値の創造を目指す姿勢を示しています。

3.1.
環境に関する基本方針

3.1.1
使用量と資源の管理

水の使用の最適化

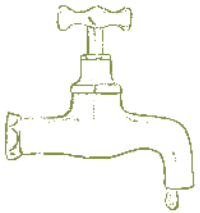
責任を持って水資源を管理することは、当社が引き続き優先する課題です。
遠隔操作可能な自動式CIP(定置洗浄)システムを導入しました。これにより、瓶詰めラインの洗浄と殺菌の手順を標準化し、監視できます。水や洗浄剤の使用量も正確に把握できるようになりました。

エネルギー使用の管理

当社では、電力の監視・管理システムを導入しています。電力供給を常時、チェックし、電力の安定的な供給と、信頼性が高く停電しない電力を確保しています。
新たにバイオマスボイラーを設置したため、2025年のエネルギー消費量は、2024年度より増加しました。このボイラーで、ワイン貯蔵槽とオフィスの暖房をまかなっています。ボイラーを整備している間は、ヒートポンプや電気ヒーターなど電気で動く設備で一時的に代用し、給湯もまかないました。これは、例外的で、一時的な運用であり、当社のエネルギー供給システムの基本は変わっていません。

3.1.2
サプライヤーのサステナビリティの評価

当社では、取引先もサステナビリティの取り組みに参画してもらうよう、積極的に働きかけています。数年前に、主要な取引先ごとに専用の質問票を用意し、評価する仕組みを作りました。2025年も継続し、さらに充実させています。サプライチェーン全体にわたり、環境、社会、経済の実績を把握しています。



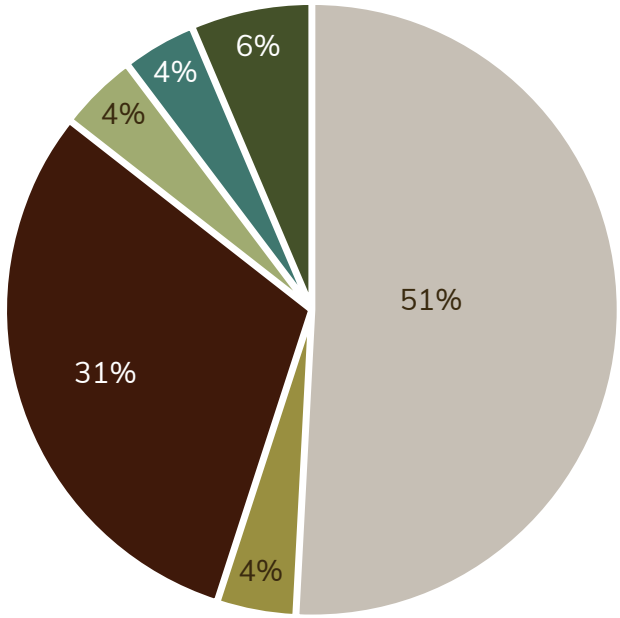




3.1.3
フィードバックへの対応と継続的な改善

市場やステークホルダーから寄せられた意見や報告に対し、迅速、かつ、的確に対応しています。
2025年度の総出荷数は9,037件で、不備があったのは49件、全体の0.50%でした。この数値は、物流での信頼性が高く、管理手順が有効であることを裏づけています。
品質に関する問題は、カスタマーサービス、醸造部門、関係部署が連携し、対応しています。2025年は、ブショネ(コルク臭)の疑いがある報告34件を調査して社内確認した結果、22件がブショネと判明しました。

出荷の管理

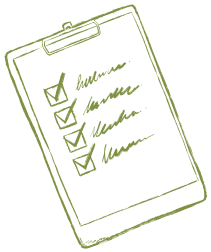


出荷総数	9,037 件
不備の件数	49 件
不備の割合	0.50%

- 納品できず (3)
- 注文と相違 (2)
- 指定期日に未着 (2)
- 注文品の一部欠品 (15)
- ボトル、ボトルネックの破損 (25)
- 梱包の破損 (2)

3.1.4
内部監査とコンプライアンス

2025年でも内部監査を実施し、サステナビリティ管理システムが有効に機能しているか確認しました。
監査対象は、品質管理システム、畑での作業、醸造と瓶詰め、生物多様性、社会・経済との関係性、情報発信、法令の遵守です。
内部監査の結果、Equalitas　SOPD規格（イタリアのワイン業界のサステナビリティ認証の基準）の主要要件を100%満たし、重大な不適合は見つかっていません。
内部統制の仕組みは有効に機能しており、当社の高い水準は保たれています。



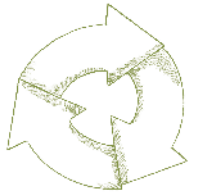
3.1.5
ボトルの軽量化

二酸化炭素排出量を減らす取り組みとして、軽量化ガラスを使用しています。2025年には、レ・ヴォルテ・デル・オルネッライアのボトルを軽量化しました。重量を550グラムから415グラムに抑え、ガラスを合計195.6トン削減できました。
この取り組みで、ガラスの使用総量が大きく減りました。梱包材の製造と輸送にともなう二酸化炭素排出量も減少しています。



3.1.6
環境に配慮した梱包

2024年から、PEFC認証を取得した木箱だけを使い、現在、オルネッライアとマッセートの全ワインに定着しました。適切に管理した森林から木材を調達する方針を改めて明確にしました。生物の多様性の保全を支え、地域社会の環境、経済、社会の持続可能性にもつながっています。

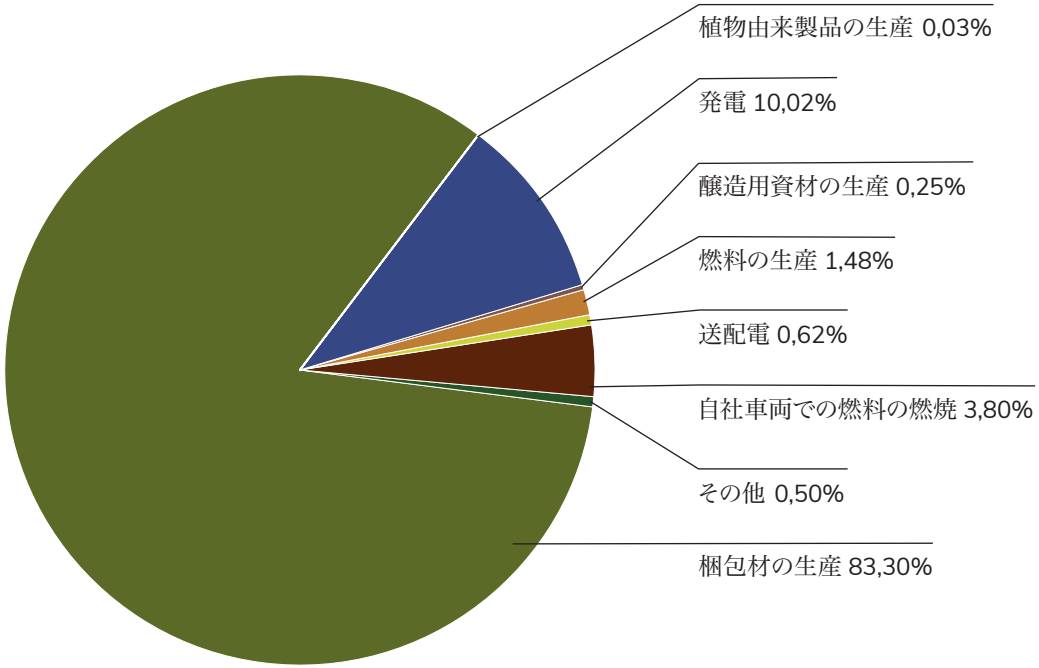


3.1.7
環境負荷の把握



2024年、二酸化炭素排出量(カーボン・フットプリント)と水資源の使用量(ウォーター・フットプリント)の算出を開始し、2025年も測定を継続しています。分析手法を理解し、今後の改善計画の指針となる基準を策定するため、両方の数値は社内で算出しました。分析結果から、二酸化炭素の総排出量に梱包が大きく関係することがあらためて確認でき、環境に配慮した梱包への取り組みを引き続き進めます。

影響源別の二酸化炭素排出量(確定前)



3.1.8
製品の安全、品質、コンプライアンス

衛生、洗浄・殺菌、醸造用資材の使用、瓶詰めラインの管理の作業手順は、品質管理システムに組み込んであります。生産の全工程を定期的に点検し、トレーサビリティ、食品の安全、法令の遵守をチェックしています。
2025年に見つかった不適合は、手順を定めて検証し、解決しました。品質管理の仕組みとカスタマーサービスが正常に機能しています。



3.1.9
監視システムとデジタル化

当社のデジタル管理システムは、常に進化しており、エネルギーと水の使用量は高度な計測技術で監視しています。施設全体に監視網を設け、主要な資源の流れを正確に測っています。これにより、分析の精度が上がり、最適化した改善がピンポイントで可能になりました。





3.2. 社会に関する基本方針



研修と人材教育

2025年、当社は研修の仕組みを確立しました。法律で義務づけた研修を全て修了するとともに、従業員のさらなる技術力、能力向上のための上級コースも用意しています。

技術や専門知識の研修に加え、資格取得、語学、サステナビリティや企業の革新を学ぶ講座も通年で実施しています。

数年前に導入したコンピュータのアプリケーションにより、研修の全体を俯瞰しながら効率よく研修を運営でき、従業員も自発的に参加するようになりました。

サステナビリティを正しく伝える取り組み

2025年も、当社は、これまでの成果や今後の目標、サステナビリティへの取り組みを共有するため、従業員の意識向上を図る活動を継続しました。

従業員間でサステナビリティの文化を根づかせることは、非常に重要であると考えています。従業員が進んで活動に参画し、ESG(環境、社会、ガバナンス)の考え方を日々の作業で実践する上で、欠かせません。

当社は、サステナビリティの取り組みを一般に公表しています。数字や事実で誰でも確かめられ、伝える内容が年ごとにぶれないよう努めています。ステークホルダーとサステナビリティの活動を分かち合い、環境、社会、経済面での活動を明確にしました。

サステナビリティについて対話を深め、ステークホルダーにも参画してもらうため、専用のメールアドレスも設けました。ESGの取り組みへの意見や要望は、こちら(contacts@ornellaia.it)へお寄せください。

3.3 経済に関する基本方針



サステナビリティへの支出計画

2025年、サステナビリティに直接関係する支出総額は、446,000ユーロに達しました。

エネルギー効率の改善、空調と冷却設備の更新、最新鋭技術による水資源の管理システムの導入、太陽光発電の拡大、生産設備の改良のために重点的に支出しています。

文化面、社会面でもオルネッライアは貢献しています。その中核が、「ヴェンデミア・ダルティスタ」で、長年にわたり、世界の芸術機関や、誰もが芸術を鑑賞できる取り組みを支えてきました。

特に、グッゲンハイム財団へ継続的に寄付をしています。ニューヨークのグッゲンハイム美術館で開催する「近代ヨーロッパ美術の潮流」展に向け、主要作品の保存・修復用の費用を拠出しました。

同時に、慈善の取り組みや、社会的課題に貢献している団体への支援も続けています。対象となる組織は、地元だけでなく海外にも及びます。スポーツ団体のほか、社会、地域に根ざして活動する団体、例えば、ダイナモ・キャンプ財団（フィレンツェの重症児の治療施設）、マリア・レティツィア・ヴェルガ・センター財団（小児白血病の研究・治療財団）、サン・パトリニャーノ（フィレンツェの薬物中毒者の治療施設）、AIRC(イタリアがん研究協会）などへ寄付しています。

サステナビリティ5ヵ年計画(2021～2025年)の成果

4

当社のサステナビリティ活動は、最初の5ヵ年計画が2025年に完了しました。この間、総額300万ユーロを支出しました。これにより、日々、環境に配慮しているか、働く人や地域のためになっているか、事業として継続できるかとの視点で判断する考え方が定着しました。初めは、個々の小さいプロジェクトにすぎなかった取り組みが根づき、大きな流れへと育ちました。

サステナビリティの歴史

2021年

- 第1回サステナビリティ・レポートの作成
- ボトルの軽量化に着手

2022年

- 照明をすべてLEDに切り替え
- 電力と水の使用量の監視を開始

2023年

- 各設備の効率化

2024年

- 二酸化炭素排出量と水資源の使用量を初めて算定
- PEFC認証を取得した木箱へ切り替え
- WBAの生物多様性認証とSQNPI認証を取得

2025年

- 太陽光発電の拡大
- 電力品質の監視システムを導入

目標の達成状況(2021～2025年)

5

目標の達成状況(2021～2025年)

1. ボトルの軽量化
目標:合計 −300トン
達成率100%

2. ワイナリーでの水使用量の削減
目標:−20%
達成率100%

3. 照明のLED化
目標:100%
達成率100%

4. 車両の電動化・ハイブリッド化
目標:社用車を段階的に切り替え
進行中

5. 太陽光発電の拡大
目標:設備を当初の3倍
達成率100%

5ヵ年計画の完了にあたり、計画の立案当初に掲げた主な目標に関し全体の達成状況をチェックします。

追加で達成した目標

6

追加で達成した目標

環境に関する認証

追加の目標

認証の仕組みを固め、環境に配慮した農業の実践



達成した成果

- WBAの生物多様性認証を取得
- SQNPI認証を取得
- Equalitas SOPD の管理システムが定める水準を維持



認証を取得した木箱

追加の目標

認証を受けた資材の使用を定着

達成した成果

梱包に使う木箱の100%が、PEFC認証を取得した木材。

今後の目標と進行中のプロジェクト

7

今後の目標と進行中のプロジェクト

オルネッライアとマッセートでは、常に改善を進めています。その一環で、環境への配慮と従業員の働きやすさという目標に計画を合わせるため、重点プロジェクトをいくつか、数年先へ組み直しました。
一つが、オルネッライアのテラスの改修で、もう一つが、「ボトロ・デッレ・マチーネ」という農業用建物の建て替えです。これにより、建物が従業員の空間に生まれ変わり、日々の仕事を支える設備となります。職場環境を改善して、従業員の交流を促進し、働きやすさを生む福利厚生の一環です。資材や工法の選定には特に注意し、耐久性、効率、持続可能性を優先します。
あわせて、ワイナリーの建物のエネルギー効率も改善します。これまで、最新の工法により、建物の設備を効率よく管理し、排出とガス消費を抑えてきました。今後は、屋根を改修して断熱効果を高めます。窓など、ガラス面には日よけを設けて、室内の温度上昇を抑え、冷房にかかるエネルギーを削減します。

現在進行中の取り組みとして、太陽光発電の拡大計画の仕上げがあります。
環境効率を保ちながら、自家発電量を増やし、外部から購入する電力への依存を減らすことを目標にします。
この取り組みを通じ、オルネッライアとマッセートは、資源を効率よく使う姿勢を明確にします。同時に、日々ここで働く全ての人に快適で持続可能な職場を作ります。

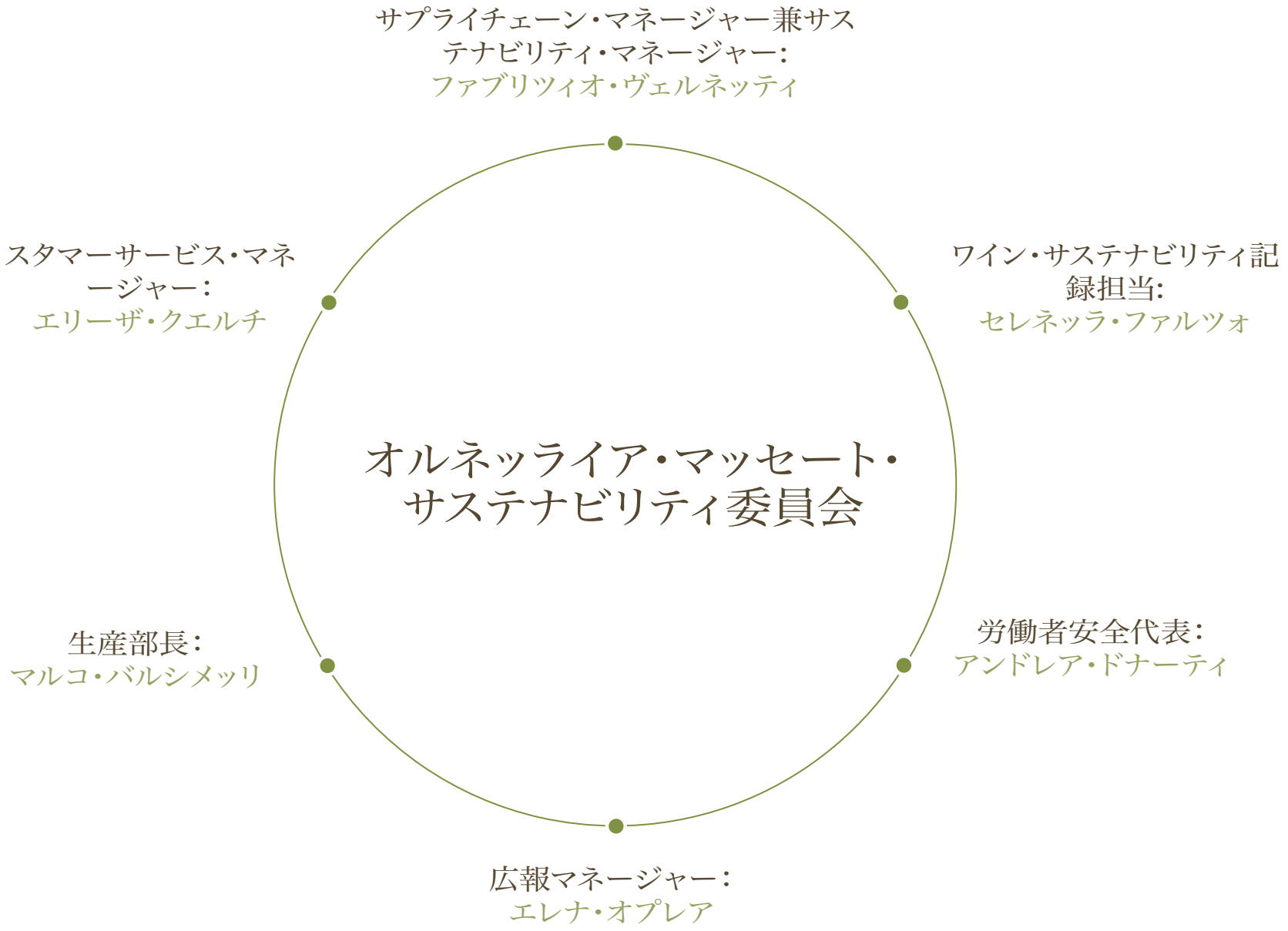


オルネッライア・マッセート
サステナビリティ委員会

8

サステナビリティ委員会

2025年、サステナビリティ委員会は、サステナビリティ実施報告書の更新、環境・社会指標の監視、既存の認証の維持、5ヵ年計画の主要な取り組みを監督しました。サステナビリティの最初のサイクルを完了したことで、委員会の重要性が大きくなりました。今後、目標を策定し、サステナビリティの原則を当社の意思決定と業務の進め方に織り込む上で、中心的な機関となります。





ORNELLAIA

MASSETO



